

短期予報解説資料 2026年2月15日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- 500hPa 5400m付近の正渦度極大域に対応した低気圧が前線を伴い、日本海北部を東北東進。500hPa 5640m付近のトラフに対応した低気圧が前線を伴い四国沖付近を東南東進し、種子島付近では前線近傍で非常に激しい雨を解析。
- 高気圧が北海道の南東海上を東南東へ移動、日本の東の高気圧が東北東へ移動。
- 500hPa 5220m以下で-36°C以下の寒気を伴う寒冷渦が中国東北区を南東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- 1項①の日本海北部の低気圧は、次第に1項③の寒冷渦と対応し、16日にかけて急速に発達しながら、宗谷海峡付近を通過し、千島近海へ進む。前線は閉塞しながら、16日朝にかけて北～東日本を通過する。日本付近は、前線通過後は次第に西高東低の気圧配置となり下層寒気が流入し、降雪が強まる所がある。北海道地方では16日は、降雪による交通障害、着雪に注意。16日は、500hPa 5220～5460mで-30°C以下の寒気を伴う深いトラフが北海道付近から日本海西部にかけてのびて、17日にかけて北～東日本を通過する。1項①の九州付近の低気圧は、15日朝にかけて四国沖へ進み、トラフが先行して日本の東へ進むため、次第に衰弱しながら本州の南の海上を東北東進し、15日夜までに前線は不明瞭化する。日本海西部には、16日朝までにシアーラインが発生し16日夜にかけて山陰沖西部を指向する。伊豆諸島付近には16日夜までにシアーラインが発生し降水が広がる。南西諸島付近では、大陸からの高気圧の張り出しの縁辺で、北北東と北東の風が収束し、降水域が広がる。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い強い雨の降る所がある。九州では15日は、落雷、突風、短時間強雨に注意。低気圧やシアーラインの近傍では気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では16日にかけて、東～西日本では16日は、強風、風雪、高波に注意。低気圧に向かう下層暖湿気の影響で850hPaの気温が平年より約10°C昇温する。北～西日本の多雪地では16日にかけて、なだれに注意。
- 17日はじめは、西高東低の気圧配置が持続し、2項①の深いトラフの影響で伊豆諸島付近のシアーライン近傍で降水域が拡大し、風が強まり、波が高くなる所がある。その後、日本海に高気圧が発生し、日本付近を広く覆いながら日本の東へ移動する。日本海西部のシアーラインは高気圧の発生に伴い、次第に不明瞭化する。17日は、2項①の南西諸島付近の収束は次第に不明瞭となるが、大陸の高気圧縁辺の吹送距離・吹続時間の長い北寄りの風の影響で、うねりを伴い波が高くなる所がある。東日本太平洋側と南西諸島では17日は、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 防災関連事項【量的予報等】
 - 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - 降雪量(06時からの24時間)：北海道30cm。
 - 波浪(明日まで)：北海道3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。

